



鈴木 郁馬 さん (すずき いくま)

神奈川出身、平成7年に高知県に移住して就農、現在は高知県南国市で施設シトウ、早掘カンショ、水稻を栽培
高知県指導農業士連絡協議会長として就農希望者を受入れるなど、新規就農者の育成に向けてご尽力されています

わざわざ高知で農業を始める！ その理由が「ここ」にあります。

職業としての農業

温暖で冬場の日照時間が長い高知県では、平地を中心に収益性の高い施設園芸が盛んに行われています。ナス、ニラ、シシトウなどは出荷量が日本で、天敵昆虫^{※1}を利用した環境保全型農業や、園芸農業先進国であるオランダの先進技術を導入するなど、「園芸王国」高知ならではの強みを活かした農業を実践しています。

多くの農家は、家族経営を中心とした自立自営農業をされ、施設園芸の場合は三〜五百万円程度の所得を目指し、地域で暮らし稼げる農業を実践されています。

産地や地域が農業を志す方を募集

高知県では、「産地提案書」により産地や地域

に適した作物で農業を志す方を募集しています。産地での就農に向けて、相談・研修・就農までを総合的に支援するため、よりスムーズな就農に繋がります。

現在、数名の退役自衛官の方が農業開始に向けて高知県内の受入農家で研修をされています。

ゼロから始めた高知での農業経営

(神奈川県から高知で就農、鈴木郁馬さん)

鈴木郁馬さんは、神奈川県横浜市出身です。大学卒業後不動産開発会社に勤務していましたが、開発目的で農地の転用手続き等に携わらうちに、農地を守る農業に関心を持ちました。九四年に長野県の八ヶ岳中央農業実践大学で一年間の実践研修を受けた鈴木さんは、農業で生活していこうと決心しました。この時に、様々な農業の経営のうち、少ない面積でも高い収益を上げられる施設園芸で生活していこうと決めたそうです。

全国の産地を見て回る中で、高知県南国市を就農地と定めたうえで、苦勞して見つけた農家で7ヶ月の研修を開始。当初は、「何も持たずに就農？甘いのではないか」と言われたこともあったそうです。

その後、ハウスを貸してくれる方が見つかり、九五年に本格的に移住して高知での農業がスタート。九七年には良きパートナーと出合って結婚。二年にはマイホームを建設して高知を永住の地と定めたそうです。

農業をするうえで、自分で決めた作業予定を達成したり、収穫物がお金になることで、「充実感」や「達成感」が得られることが大きな喜びだと鈴木さんは話します。

現在、鈴木さんは地域での新規就農者の育成に留まらず、高知県指導農業士連絡協議会の会長として、自分の経験などをもとに高知県で農業を志す方への支援や受入体制の整備などに活躍されています。

鈴木さんが最も苦勞したのは、農業を始めるにあたって、情報を集めたり、基本的な技術を学ぶ場がないことでした。

高知県では鈴木さんのように移住して就農した方の意見も取り入れて、都会で仕事をしながら、農業の情報や基礎知識が得られる、「こうちアグリスクール」を開設することになりました。

高知県農業への入門講座

農業経験のない方を対象に、農業の基礎知識や就農までの流れ、各種支援制度などが学べる「こうちアグリスクール」を東京と大阪会場で開催しています。高知県へ1ターン就農された農家による体験談もあります。

5回の講座形式で、土曜や日曜日に開催していますので、高知県で農業をお考えの方は是非ご参加ください。

※1 天敵昆虫とは、農作物に被害を及ぼす害虫を退治する昆虫



こうちアグリスクールでの講義の様子

こうちアグリスクール
ホームページはこちら



就農準備

働きながらOK!土日に学ぶ「就農」

こうちアグリスクール

働きながら学べる就農への第一歩となる講座です。

受講料:2,550円/東京・大阪 1,020円/高知

農業の基礎知識や就農までの流れ、支援制度、栽培技術、農業経営などについて高知県の専門の指導スタッフが講義を行います。さらに、研修生ごとに就農相談を行い、ご希望や条件に応じて、今後のスケジュールや準備のご提案もさせていただきます。



高知会場【全2回 定員/各20名】

春期土日講座 ◎会場/高知県立農業担い手育成センター
◎日程/5月21日・22日

秋期土日講座 ◎会場/高知県立農業大学校
◎日程/11月5日・6日

東京会場【全5回 定員/夏期各30名・冬期20名】

夏期土曜講座 ◎日程/7月23日・30日
8月6日・20日・27日

夏期日曜講座 ◎日程/7月24日・31日
8月7日・21日・28日

冬期土曜講座 ◎日程/1月21日・28日
2月4日・18日・25日

大阪会場【全5回 定員/40名】

秋期土曜講座 ◎日程/10月1日・15日・29日
11月12日・19日



高知県指導農業士新規認定授与式で高知県知事(右)を交えて意見を述べる鈴木氏(左)